

Vol.83

Vol.83 (2020年夏号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Column / 組織	3
Best Practice and Competence / 月例セミナー	8
Activities / 支部活動	12
PM Calendar / PMカレンダー	27
Fact Database / データベース	28
Editor's Note / 編集後記	32

Column / 組織

◆新任理事ご挨拶 3

PMI日本支部 理事 国際連携、標準推進担当 金子 啓一郎
 PMI日本支部 理事 PMコミュニティ活性化、地域サービス担当 伊藤 芳彦
 PMI日本支部 理事 R.E.P (Registered Education Provider) 担当 中村 亜子
 PMI日本支部 理事 組織拡大、標準化推進担当 米澤 徹也

◆新任監事ご挨拶 6

PMI日本支部 監事 島崎 理一
 PMI日本支部 監事 山中 良文

Best Practice and Competence / 月例セミナー

◆月例“ウェビナー”開催までの道のり 8

PMI日本支部 セミナープログラム 幹事 近藤 昇久

Activities / 支部活動

◆PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey」の概要紹介 12

◆PMI日本フォーラム2020のご案内 17

◆『組織のプロジェクトマネジメント(OPM) 標準』日本語版出版について 25

OPM翻訳プロジェクト リーダー、OPM研究会 リーダー 河々谷 健一

PM Calendar / PMカレンダー 27

- ・PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 28

Editor's Note / 編集後記 32

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。
 「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Column / 組織

新任理事ご挨拶



国際連携、標準推進担当

金子 啓一郎 (かねこ けいいちろう)

三菱電機人材開発センター 主席講師

今年より新理事を拝命しました金子啓一郎と申します。私はこれまで電機メーカーにてプロジェクト・マネジメントやビジネス・アナリシス、ヒューマン・スキル教育やグローバル人材の育成など、幅広く人材育成にかかわってきました。PMIでは、2011年から人財育成Study Group、その後PMタレント・コンピテンシー研究会、ビジネス・アナリシス研究会に参加し、その成果を日本フォーラムやGlobal Conferenceで紹介するとともにプロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発フレームワーク（PMCDF）第三版の査読や翻訳にも携わりました。今年からは理事として標準推進と国際連携を担当しています。

標準推進については、次々に発行されているPMIの標準や実務書を会員の皆さまにできるだけ早く正確にお届けすべ

く、調査・研究から翻訳・出版までのプロセスの最適化を図り、価値の高いものをタイムリーに展開できるよう努めていきます。その上で、翻訳された標準を広く日本のPMコミュニティの皆さまにご活用いただくためのセミナー開催等を推進していきます。また、標準類の翻訳や普及、Webinar等の活用に関するPMI本部との調整も進めていきます。

国際連携については、PMI本部や東アジア地域各支部との連携を推進させ効果を高めていきます。PMI本部が様々な施策の展開を加速させる中、各種PMアセットをスムーズに活用できるよう調整するとともに、日本支部の考えも主張し、相互に有益な関係を強化します。また、世界で300以上ある支部の中でも会員数の上ではトップ10に入る重要な支部として、主導的に東アジア地域の各支部の連携を深めていきます。各支部主催の主要イベントやリージョンミーティング等で日本支部の活動について積極的に発信し、当支部のプレゼンスを一層向上させます。

これらの活動を通じて、会員の皆さまに一層付加価値の高いサービスを提供できるよう尽力していきますので、ご意見、ご要望をお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。



PMコミュニティ活性化、
地域サービス担当

伊藤 芳彦 (いとう よしひこ)

三菱総合研究所 執行役員
コンサルティング部門副部門長

はじめまして。この度、PMコミュニティ活性化委員会ならびに地域サービス委員会に参加をさせて頂くこととなりました新任理事の伊藤芳彦と申します。

PMI日本支部会員間のコミュニティと地域における会員活動の活性化、ひいてはPMI日本支部の発展に微力ながら貢献をしていければ幸いです。以下、簡単ではございますが、

ご挨拶を兼ね自己紹介をさせていただきます。

私は三菱総合研究所というシンクタンクに所属しております。入社以来、お客様の技術戦略、マーケティング調査、システム化構想、BPR、要件定義、RFP等の上流フェーズからシステム構築・運用フェーズに至るコンサルティング業務、技術革新や法制度改革に伴う新たな社会システム実証事業の運営、また、近年では、お客様のデジタルトランスフォーメーションの一環として、AI、IoT等の先端技術を活用した業務革新、国内外のスタートアップ企業、ベンチャー企業等とのアライアンスによる新規サービス開発等に従事してまいりました。この間、みなさまと同様に、プロジェクトマネジメントの知見に何度も助けられ、またその重要性を実感してまいりました。

Column / 新任理事ご挨拶

一方、最近増えつつあるPOC、POV等を踏まえたアジャイル型の開発プロセス、トライ&エラーによるクイックな変更管理が求められるAIを活用した新サービス開発、複雑に利害関係が入り組むステークホルダー間の調整・交渉を伴う新事業開発等において、まだまだ学びが多い日々を過ごしております。

今回、PMI日本支部の活動に参画する機会を頂いたので、こうした活動の中で培ったプロジェクトマネジメントの経験を活かしつつ、みなさまの活動の一助となるよう努めてまいりたいと思います。新参者ではございますが何卒宜しくお願い申し上げます。



R.E.P (Registered Education Provider) 担当

中村 亜子 (なかむら あこ)

パーソルラーニング株式会社

皆さん、はじめまして。今年よりR.E.P (Registered Education Provider) 担当理事に任命されました、中村亜子と申します。他にも組織拡大委員会、フォーラムなども担当しています。R.E.Pというのは、PMIに認定された教育プロバイダーの略称でして、PMP資格試験対策コースやその他のプロジェクトマネジメント関連の研修などを提供し、PMP資格保持に必要なPDUを発行できる機関を指します。日本には、そうしたR.E.P認定を受けた企業が多数ありますが、これまで各社独自でPMI本部から情報を集めるなど、苦勞をしているといった実態があります。更に、今年はそのR.E.Pの仕組みが刷新され、ATP (Authorized Training Partner) という

新制度に変わり、その認定を取らないとPMIで定められたPMP試験対策コースを提供できないという、R.E.P企業にとっては大きな変換の年となります。そこをスムーズに移行できるよう、PMI本部からの情報をタイムリーに分かり易く届けられるよう、PMI-AP (Asia Pacific) に働きかけ、動かすのがR.E.P担当理事の役目になります。

私自身も現在、R.E.Pである教育コンサルティング会社(パーソルラーニング㈱)に所属しており、企業向けにプロジェクトマネジメントを軸にした人材開発や組織開発のコンサルテーションをかれこれ十数年やっております。その関係でPMI本部、PMI日本支部との付き合いも長く、おかげでR.E.Pのしくみについてもかなりノウハウが溜まったかな、と思っています。そうした経験やPMI関係者らとの繋がりを活用して、理事活動に生かしていきたいと考えております。

加えて、PMI日本支部で活動する仲間の輪を拡げることもしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。



組織拡大、標準化推進担当

米澤 徹也 (よねざわ てつや)

東洋エンジニアリング株式会社

この度、新たに理事に就任しました米澤です。多くの理事の方はPMI日本支部での長年にわたる活動実績を踏まえて理事に就任されているのだと思いますが、私の場合はこれまでPMI日本支部での活動経験はありません。

私はPMP®を1999年に取得後、同年からPMAJ (日本PM協会)の前身であるJPMF (日本PMフォーラム)にてPMP®受験を支援する部会で活動を始めました。その後、2005年にPMCC (PM資格認定センター)に統合されPMAJになってからもPMAJ理事としてそれまでの活動を続けてきました。この間、PMP®受験の支援だけでなく、PMAJが発行するPM標準であるP2M、英国発のPM標準であるPRINCE2、IPMA (国際PM協会)が発行するICB、ISO21500シリーズなどの世の中の代表的なPM標準の紹介等を行ってきました。

冒頭で、私はPMI日本支部での活動経験はないと記しま

Column / 新任理事ご挨拶

したが、PMAJとPMI日本支部の協力関係の推進の一環として、2017年にバルセロナにて開催されたPMBOK®ガイド第6版日本語訳のValidation会議に参加させて頂きました。またPMBOK®ガイド建設拡張版の翻訳メンバーとしても参画させて頂きました。

PMI日本支部は他団体との協力関係の推進を企図していて、その一つに同じPMに係る協会であるPMAJとの連携を推進するために、PMAJから理事候補をとということで、PMAJか

らの推薦を受けPMI日本支部の理事に就任しました。

PMI日本支部は会員数が5,000人を超えていますので、PMAJで活動してきた私から見るとこれ以上拡大する必要があるのかとも思いますが、PMの認知度は日本全体から見るとまだまだ低いと言わざるを得ません。

より多くの人や組織にPM標準を普及させ、活力ある日本を取り戻すために微力ながらも貢献できればと考えていますので皆様のご協力を宜しくお願い致します。

新任監事ご挨拶



監 事
島崎 理一 (しまざき りいち)
OPTY合同会社 代表

今年から監事に就任させていただきました島崎です、と、ご挨拶するよりも、大変ご無沙汰しておりますと申し上げたほうがよい読者の方もいらっしゃるかも知れませんね。PMI日本支部がまだ東京支部であった頃、2004年から2006年の間、当時の情報・宣伝委員会担当の理事をしておりました、あの島崎です。

先般の20周年記念誌でも、石橋和雄さんが当時の情報・宣伝委員会の活動を詳しくご紹介されておられました。このニューズレターやwebの最初の骨格を作った頃に在籍しておりました。当時はEVMの日本への定着を目指して、PMI-CPMフォーラムを仕組む等、皆さんとの楽しかった活動の日々が思い出されます。

銀行から転職したと同時にPMI理事会も退会しましたが、

それ以降も実践でのPM活動は続けており、石油化学企業の海外工場建設、IT企業での全社事業戦略作成、総合研究所等の新規事業部門の立ち上げ等、PMBOK®を知らなかったらどれも成功できなかった仕事ばかりでした。PMBOK®との出会いとともに、皆さんとのPMIでの活動で様々な経験ができましたことに改めまして感謝致します。

PMI日本支部も大きな組織になりましたね。PMにとって、コミュニケーション力の重要性は、PMを勉強し日々実践する我々にとっては当たり前のことかもしれませんが、その中のひとつのスキルに、Reporting（報告）がありました。ここで意識しなければならない原則があって、それは透明性・アカウントビリティ・ガバナンスという3つの原則を守ることがあげられています。

私は今回、監事の立場から、大所帯になられたPMI日本支部において、with コロナの環境下で、いままでの報告のやり方や判断のプロセスが今後大きく変化してゆく中で、どうやって、より上の3つの原則を維持しながら、より効率的な組織として維持できるかを微力ながら考えていければと思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



監 事
山中 良文 (やまなか よしふみ)
(前プロジェクトマネジメント研究会代表)
JFEシステムズ株式会社
内部監査室長

今年から監事に就任させていただきました山中です。

2003年4月に支部会員となったのですが、当時は、顧客の経営統合プロジェクトにPMとして参画しており、社外活動に手を出す余裕がなく、ようやく2009年から部会活動を開始しました。支部活動は12年目を迎え、相変わらず継続中です。

変わったことと言えば、この1月以降、「山中幹事」宛のメー

ルを受け取る機会が多くなったことでしょうか。漢字違いですが。

さて、監事の仕事は、「理事の職務執行を監査すること」です。何のために監査するかというと、法令遵守・業務効率化・資産保全・財務情報の信頼性確保、ということになります。平たく言うと、会員の信頼性確保です。

私が、PMIに入会した2003年当時、(PMI日本支部の前身である)東京支部会員は、数百人レベルでした。それが現在は、5,100人越えの状態です。

特にここ2～3年の会員増は顕著で、ある種の危うさを感じる程、絶好調ですが、これも日本支部が長年築いた信頼が貢献していると理解しています。

さて、私は、仕事柄、不祥事を耳にする機会が多くあります。検査データ改ざん、(循環取引などの)架空取引、横領など

Column / 新任監事ご挨拶

です。不祥事が顕在化した場合は、事実関係と原因を調査し、今後の予防と発見のためのコントロールを設定するのが、ごく普通の措置です。そして、その結果を、主なステークホルダー（PMI日本支部なら会員）に説明する責任が、役員（理事）と、その執行を監査する監査役（監事）にはあります。もし、ステークホルダーに満足な説明がされず、むしろ隠蔽に加担

しているとの印象を持たれると、長年培った信頼が一瞬にして損なわれます。

PMI日本支部において、不祥事は発生しえないと考えていますが、一層のリスク軽減に向けて、丹念に確認し、課題があれば躊躇なく改善指摘をするつもりです。

どうぞ、よろしく申し上げます。

Best Practice and Competence/ 月例セミナー

月例“ウェビナー”開催までの道のり

PMI日本支部 セミナープログラム 幹事 近藤昇久

■新型コロナウイルス禍でのウェビナー開催の成功

2020年4月24日、セミナープログラムが企画している月例セミナーを、初めてオンライン・リアルタイム配信のウェビナー形式で開催し、140人を超える方に参加いただきました。これまでの月例セミナーでは会場の収容人数の制限で最大でも130人、平均では1回あたり約100人の受講者でしたから、ウェビナー化で場所・移動時間の制約がなくなったことによる大きな効果と思います。

実際、受講完了報告のアンケートで聴講場所（都道府県）を尋ねたところ、北は宮城県、西は香川県や島根県と首都圏以外の方が22人、加えてアメリカから1人ということで、いつもの都内の会場での開催では参加が難しい方にも聴講いただくことができました。

セミナー全体の総合満足度は97%と非常に高く、もちろん講師の方の内容が良かったことが一番の理由ではあるのですが、ウェビナーになったからといって満足度が下がることはなく、企画する側としてひと安心しました。

場所や移動時間のほかにウェビナーになって良かった点について、受講者からの声は「一人で落ち着いて聴講できる」、「質疑応答で投稿しやすい」、「チャットに投稿することで、受講者の考えをリアルタイムで聞け、自分の考えの整理になる」といったものがありました。一方、「臨場感に欠ける」、「講師の熱意が伝わりにくい」といった声や、自宅でリモートワークをされている方が増えていることもあり「家族が居て落ち着いて聴講できない」という声もありました。ウェビナー開催、会場開催のそれぞれの良さを活かした使い分けは、やはり必要だろうと思います。

セミナープログラムでは、企画ごとに担当プロジェクト・マネージャーをメンバーから任命し、ほかのメンバーとともに講師への登壇依頼・交渉、開催準備、当日の運営を行っています。4月度月例セミナー担当PMの松丸氏は開催を終えて次のように語っています。「正直わずか1か月の準備期間でウェビナーへの切り替えは絶対できないと思っていました。

最初はZoom Webinarがどのようなものかも知らなかったですし、本業の仕事のかたわら、検証やリハーサルに時間を割いてくれたメンバーのおかげです。ずっと心配で、本番30分前ようやく開き直れました。終わってみて、大成功したという実感はないですが、達成感と解放感はありますね。その日の夜は、ようやく気持ちよく酒を飲みました。」

これまでセミナープログラムの企画では、月例セミナーの録画を後日にオンライン配信することや、PMI Japan Festaで、来場できない方のための補助的な位置づけで、専門業者に依頼して会場現地の講演をリアルタイム・オンライン配信していました。今回のウェビナーでは受講者は都合のよい場所からオンラインで参加し、また、講師や事務局スタッフ、セミナープログラムのボランティアスタッフもそれぞれ別の場所（自宅）からオンラインで参加して運営しました。

本稿では、先が見えない不確かな新型コロナウイルス禍の下で、セミナープログラムのメンバーがどのように状況判断、意思決定し、ウェビナー開催に漕ぎつけたか、その経緯をお伝えします。

■セミナープログラムのデジタルシフト

4月の“ウェビナー”から遡って、2020年1月。中国武漢での新型コロナウイルス感染の拡大による死者の増加、都市のロックダウン、日本では中国からの帰国者が発症というニュースが流れるようになってきたものの、その頃はまだ対岸の火事という印象で、このあと自分たちの仕事や生活に大きな変化が訪れるとは、誰も思っていませんでした。

1月25日(土)に新春特別セミナーを滞りなく終え、28日に月次定例の企画会議がありました。この2020年最初の定例会議の議題として、通常のセミナー、イベントの企画検討のほかに、セミナープログラムのメンバー間のコミュニケーション改善が取り上げられました。セミナープログラムのリーダーは、チーム内のコミュニケーションに課題があると考えていました。例えば、電子メールでのコミュニケーションはスレッドの錯綜による情報の混乱があり、定例会議では事務

Best Practice and Competence / 月例セミナー

■月例“ウェビナー”開催までの道のり

局会議室への参加者優先の進行となりオンライン参加者が発言し難く、また欠席者との情報ギャップが発生することなど。

何とかこれらを改善したいとの思いから、具体的には、電子メールに代えて、企画単位で担当者のコラボレーションを促進しつつ全員への情報共有も可能とするHangouts Chatへの移行、ファイル同時共同編集作業が可能なGoogle Docsといったツールの使用、そして、会議は参加体験を平等にするため全員が原則オンライン参加とする方針で各自の環境を整えてもらうこととなりました。

この時は新型コロナウイルス対策という意味合いではなかったのですが、プロジェクトマネジメントを仕事にする私たちは、新しいデジタルツールを積極的に取り入れ、使いこなし、コミュニケーションとコラボレーションを促進すべきという共通認識があり、この時に決めたセミナープログラムの運営方針が、その後のウェビナー開催に向けたマインドセットと準備に役立ったことは間違いありません。

■2月度月例セミナーはギリギリの開催、そして3月度…

2月に入り、横浜に寄港しているクルーズ船での集団感染、そして国内で次々に感染者が発生し、社会の状況が変わり始めました。セミナープログラムは2月20日(木)の夜に月例セミナーを予定しており、その対応の検討を始めました。その頃はまだ感染症対策についての政府・自治体からのガイドラインや3密という言葉もなく、どのようにすべきか情報収集しながら検討を進めました。

この検討に使用したプラットフォームは前述のHangouts Chatで、メンバーが収集した情報を交換し、意見集約をしていきました。結論として、会場内に感染防止対策をした上で開催することとし、受講申込みされている方に向けて、「新型コロナウイルスを含む感染症の予防および拡散防止対策」のアナウンスをし、当日の会場ではスタッフはマスクを着用、テーブル等を消毒、受講者用にゴム手袋と除菌シートを用意しました。

2月度月例セミナー担当PMの鬼東氏はそのころを振り返って次のように語っています。「世間一般でも、イベントの対応について情報が少ない状況でした。メンバーは感度が高く、情報収集してくれました。参加者に安心してもらえるよう、どのような対策をしているか事前に情報を伝え



鬼東氏

られたことがよかったです。幸いなことに消毒・除菌用品も調達できました。開催することに参加者からネガティブな反応がくるのではないかと心配だったのですが、アンケートではきちんと対策をして開催したことに高い評価をいただきました。」

2月度月例セミナーの翌週には世間一般のイベントも感染症対策として中止が続々と発表される状況になり、そして2月26日、PMI日本支部として、翌2月27日～3月末に実施する予定のセミナー、イベントのすべてを中止すること、部会活動は事務局のセミナールームは使用せずリモートで行うことが通達されました。



西氏

すべてのセミナー、イベントの中止の知らせを受けて3月度月例セミナー担当PMの西氏は「中止が決まった時、開催まで1か月を切り準備の詰めのところだったので、大変残念という気持ちと、講師に申し訳ないという思いでした。また、本講師の講演の機会を早めに確保したいと思いました」と話しました（その後、8月19日開催セミナーへのシフトで合意いただきました）。

■4月度月例セミナーの行方、セミナープログラムが選んだ道

3月末までのセミナー、イベントの中止が決まり、4月も開催は不透明という状況ではあったものの、4月担当PMである松丸氏は粛々と準備を進めました。3月4日、PMI日本支部ウェブサイト「4月度月例セミナーは通常通りの会場での開催」が掲載され、受講申込みの受付が始まりました。



松丸氏

3月9日のセミナープログラムの月次定例会議は、かねてデジタルシフトを進めていたことで、事務局のセミナールームを使用できなくても、メンバー全員がそれぞれの職場や自宅などからオンライン会議に参加できる環境を整えており、会議をスムーズに行える状態になっていました。

ただ、新型コロナウイルスの感染拡大がどれくらいの規模になるのか、外出自粛やイベント自粛がどれくらいの期間続くのか誰も見通せない状況だったため、4月以降の企画についてオンライン化の可能性を模索することとしました。4月度に登壇予定だった講師に、オンラインでの開催に変更した

Best Practice and Competence / 月例セミナー

■月例“ウェビナー”開催までの道のり

場合でも登壇いただけるか打診し、幸いにも快く了解を取り付けることができました。一方、受講申し込みは、受付開始から2週間経ってもわずか16人しかない状況で、受講者も申込みを躊躇していることがうかがえました。

セミナープログラムのミッションは、PMI日本支部会員をはじめビジネスパーソンに良質な学習機会を提供することです。新型コロナウイルス感染拡大の不透明な状況において、このミッションに照らして、今後の開催形式をどうするか決断するタイミングが来ていました。

3月20日、担当PM松丸氏から、4月度月例セミナーの開催方法についてオンライン会議が招集され、セミナープログラムの代表・副代表・幹事が検討に加わりました。この会議を招集した意図について担当PMの松丸氏は「戦略運営委員会から4月以降のイベントはオンラインであれば開催OKと連絡があったものの、ウェビナーに変更するにしても準備が間に合わないと思っていて、『中止』でセミナープログラム幹部の合意を取ろうと思っていた」と語っています。

ウェビナーに変更して開催することに躊躇する松丸氏に対してセミナープログラム副代表の森本氏は「同じ理由で2か月続けて中止するのは、セミナープログラムの道ではない！

3月度の中止に続いて4月度も中止ということになれば、その間、何も対策を取らなかったことと同じになっ

てしまう」と。それはプロジェクトマネジメントに携わる私たちに対するシンプルな問いかけでした。

この時点でウェビナー開催の方向で準備を進めることが決定し、論点は配信拠点に移りました。ウェビナー配信は「必要な業務」に当たると考え、事務局セミナールームを拠点として講師やスタッフが集合して配信する案が挙がりました。しかし、一方所に集まることは、そこへの移動途中での感染リスク、セミナープログラムのメンバーや事務局スタッフ、講師、その家族、職場や顧客などに感染を広めるリスクや、感染経路の調査で関係者に大きな負荷がかかるリスクが発生します。

さらにPMI日本支部で集団感染が発生した場合のレピュテーションリスクを考慮すると、これらのリスクは根こそぎ排除するべきとの考えに基づき、講師もスタッフもそれぞれ別の拠点から参加し、完全リモートで運営することに決定しました。ただし、この時点では、セミナープログラムメンバー

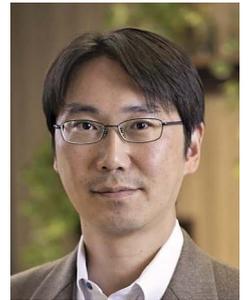


森本氏

はウェビナーのツールについて十分な知識・情報を持っていなかったため、完全リモート運営の実現可能性を検証することとなりました。

■そして、テストとリハーサルの日々

セミナープログラム幹事である私(近藤)は、ウェビナー変更にあたって必要なタスクを洗い出してWBSを作成した上で、ウェビナーの運営面での検討事項とその対策案を作成しました(図1)。これらの情報から、開催までの残り1か月で準備は十分に間に合うということ、担当PM松丸氏に報告しました。



近藤(筆者)

ウェビナーで使用するツールの選定はPMI日本支部理事でセミナープログラムメンバーでもある松本氏が進めました。松本氏とセミナープログラムの主要メンバーは、ウェビナー開催を決定した3月20日の会議のあとから1週間、毎晩のように有力候補であるZoom Webinarを試用し、その機能設計や使用感への理解を深め、実際のウェビナーの運営を考慮した際の詳細な検証ポイントを洗い出しました。私は、検証ポイントをウェビナーで使用する機能のテスト項目、ウェビナーの進行を想定したシナリオのテスト項目としてまとめ、ほかのメンバーとともにテストを実施・検証しました。その検証結果から、画面共有、チャット、Q&A、挙手といったZoom Webinarが持つ各種機能の効果的な使用方法の手順を確立していきました。

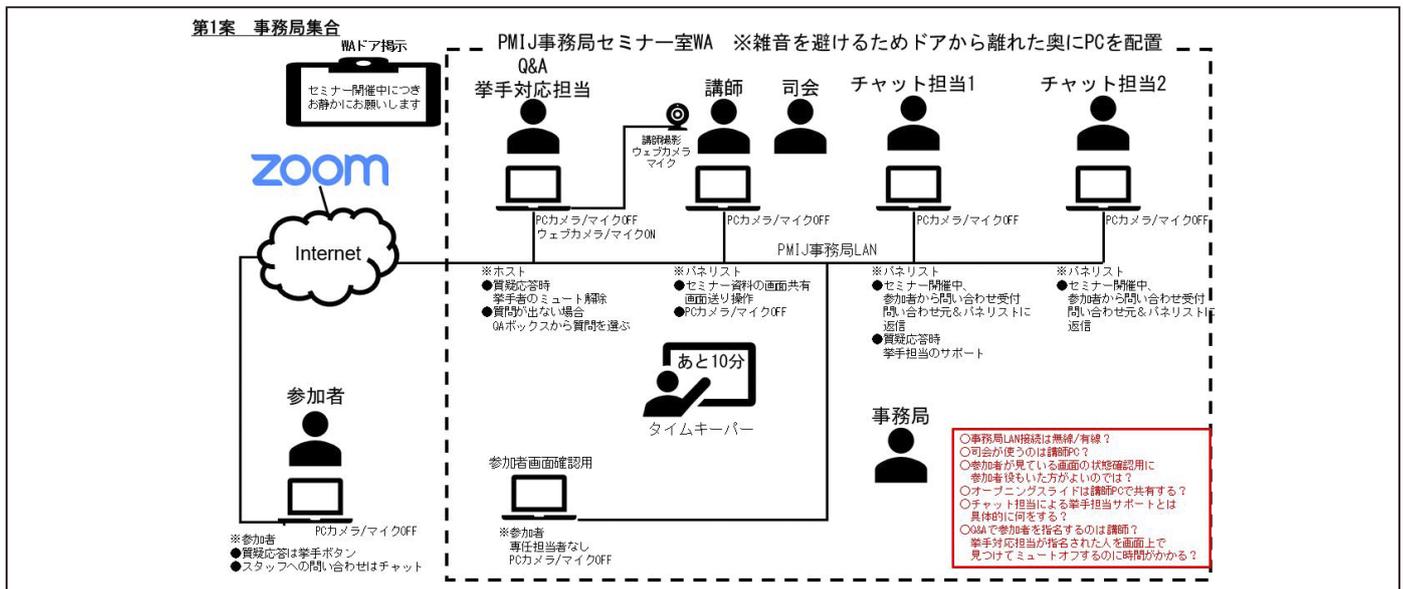
このようにしてZoom Webinarを使用して開催可能であると確信した上で、3月30日、PMI日本支部ウェブサイトでも4月度月例セミナーを“ウェビナー”に変更することを告知したところ、それを待ち望んでいたかのように、それまで16人しかいなかった申込者が、あっという間に140人に達しました。

準備の方は開催当日の運営体制の確立に移っていき、受講者にストレスなくクオリティの高い体験をしていただくために開催当日の運営スタッフとしてディレクター、司会、ビデオ・マイク操作、スライド共有、チャット担当をメンバーからアサインし、開催本番に向けてさらに3回のリハーサルを行いました。そしてついに開催日を迎え、セミナープログラムメンバーの連日の努力が冒頭に述べた成功として実を結んだのです。

Best Practice and Competence / 月例セミナー

■月例“ウェビナー”開催までの道のり

図1 ウェビナー実施要領案(当初)



■5月度、想定外中の想定外トラブル発生！

4月度の成功の裏で、並行して5月度の準備を進めていました。5月度担当PM川野氏は「4月度の結果を見て、5月度が失敗するとは思っていませんでした。リハーサルを通じて、ちょっとずつブラッシュアップしていくこと、それぞれのスタッフの役割を見直すことを考えました」とのこと。



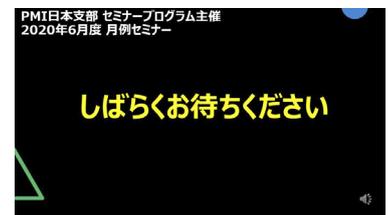
川野氏

合計4回のリハーサルを行い、本番に臨みました。結果は受講者134人、そのうち首都圏以外の方は19人、総合満足度96%と、4月度に続いて高い評価をいただくことができました。

ただし、本番では、セミナー開始冒頭の司会挨拶が終わって講師にバトンタッチしようとした瞬間、講師の画像・音声はまったく出てこないまま、講師がZoom Webinarの接続から切れてしまったのです。スタッフは何が起きたのか、全くわかりませんでした。担当PM川野氏は「講師が突然消えてしまい、頭が真っ白になってしまいました。普段の自分のセミナーであれば、いろいろなアイズブレイクができるのに、あの時はまったく何も出てきませんでした」とその時を振り返ります。

数分ほど経って、講師のネットワークが復帰しました。講師が講演冒頭で事情を説明されたのですが、2階におられた奥様がWi-Fiルーターのコンセントを誤って抜いてしまった

とのこと。想定外中の想定外というか、自宅ならではのトラブルですが、この教訓から、どんなに対策しても想定外のトラブルは発生するという前提に立ち、放送事故スライドとして「しばらくお待ちください」を表示する準備をしておくことにしたのです。



放送事故スライド

■これからのセミナープログラムの企画

会場という物理的制約が無くなったことで、開催回数を増ややすくなりました。また、開催形式はウェビナーに限らず、オンラインでの体験型ワークショップも開催してみたいとも思いますし、集合研修方式のセミナーを単にオンライン化しただけではない、より学習効果の高い体験につながる各種デジタル・オンラインツールとの連携・活用も考えています。

一方で、昔ながらの会場でのセミナーにはリアルに出会い空間を共有する体験の良さもあり、オンラインとオフラインの使い分け、または両方を組み合わせたハイブリッドなど、参加者の選択肢が広がり、喜んでいただけるセミナーやイベントを企画していきたいと思います。

こんな我々の活動に興味をお持ちの方がおいででしたら、お気軽に連絡をお願いします。

<https://www.pmi-japan.org/session/program/seminar.php>

Activities / 支部活動

PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey」の概要紹介

PMI本部のマーケット・リサーチ・チームでは、毎年1月に全世界の支部会員（支部に所属しない本部会員を除く。2020年1月末現在、約309千人）を対象に、アンケート調査を実施しています。

その結果は各国支部、リージョン毎に集計され、毎年5月から6月初旬にかけて支部に対してフィードバックされます（他の支部の数値は非公表）。以下、日本支部会員の方々の回答集計結果の概要をご紹介します。

日本支部会員の方々からは748人に回答いただきました。ありがとうございました。

まず、支部会員のバックグラウンドとして、“プロジェクトマネジメント経験年数”、“年齢”ともに、やはり高齢化が緩やかに進んでいることが見て取れます。

また、2018年から日本支部の会員数が1,100人以上（全体の2割）も増加したことから、調査結果への何らかの影響を想定していましたが、“支部に対する満足度”では「どちらかといえば満足・とても満足」の合計は特に大きな変化は無く60%台後半でした。

しかし、“支部のリーダーシップに対する満足度”の間については「どちらかといえば満足・とても満足の合計」が、2018年から5ポイント減少しています。“支部会員活動の

活発度”を見ると、「自分が望むほど活動に従事していない」という方が27%で前年比7ポイント増、「自分の望みと同程度活動に従事している」が41%で前年比8ポイント減となっており、2019年は活動度合の低下が顕著となりました。この背景としては、新規入会された方々への情報配信などが充分でなかったことや訴求不足など考えられます。2020年は理事改選などもあり、広報担当、IT担当理事などを配置して情報配信の強化や、活発に活動できる場の提供など強化のため、AI@WORKプロジェクトの立ち上げなど実施しています。

“支部会員としての活動を更に活発に行うために何が必要”かの間に対する結果からは、「都合のいいタイミングでのイベント」、「自分の業種に特化したイベント」などの要望が高く、また、「ライブイベントに参加したことがない」方は37%、「オンラインイベントに参加したことがない」方は74%などイベントの企画・実施についても改善が急務と認識しており、リモート配信強化による地域格差の是正など含めて対応していきたいと考えています。

なお、本調査はPMI本部が英語で実施しているため、本調査は英語に長けた方の意見が多く反映されていることを考慮する必要があります。今年は可能であれば、日本支部として日本語でのサーベイも企画しておりますので、会員の皆様にご協力いただければ幸いです。

Activities / 支部活動

■ PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey」の概要紹介

■ 支部満足度調査2019（Chapter Satisfaction Survey 2019）結果

2020年1月実施

■ 支部データ及び回答者のプロフィールのサマリー

2019年12月末支部会員数	5,078
2019年に増加した会員数	1,151
本調査の回答数	748
本調査の回答率	12%
回答者の平均年齢（2019年）	51
回答者の平均プロジェクトマネジメント経験年数（2019年）	16

■ 支部会員のバックグラウンド

プロジェクトマネジメント経験年数			
	2017	2018	2019
5年以下	12%	11%	11%
6～10年	29%	29%	27%
11～15年	21%	21%	19%
16～20年	21%	22%	21%
20年超	17%	17%	22%

年齢			
	2017	2018	2019
24歳以下	0%	-	0%
25～35歳	6%	-	4%
36～45歳	27%	-	26%
46～55歳	42%	-	39%
56～64歳	19%	-	26%
64歳超	6%	-	5%

支部会員であることがどれだけ自分のキャリアに重要か			
	2017	2018	2019
とても重要	15%	16%	17%
重要	35%	33%	31%
まあまあ重要	32%	34%	33%
ほとんど重要ではない	15%	11%	15%
全く重要ではない	4%	5%	5%

Activities / 支部活動

■ PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey」の概要紹介

PMI会員費の支払い者は？			
	2017	2018	2019
自分	78%	77%	77%
自分が一部、自分の会社が一部	3%	3%	3%
自分の会社	19%	20%	21%

支部会員費の支払い者は			
	2017	2018	2019
自分	80%	78%	78%
自分が一部、自分の会社が一部	3%	3%	2%
自分の会社	17%	19%	20%

■ 支部会員の満足度

全体的な支部会員満足度			
	2017	2018	2019
とても満足	19%	21%	19%
どちらかといえば満足	48%	46%	47%
満足でも不満足でもない	25%	24%	25%
どちらかといえば不満足	7%	7%	7%
とても不満足	2%	2%	1%

支部のリーダーシップに対する満足度			
	2017	2018	2019
とても満足	13%	16%	15%
どちらかといえば満足	35%	40%	36%
満足でも不満足でもない	43%	36%	42%
どちらかといえば不満足	7%	7%	5%
とても不満足	2%	2%	2%

支部会員を継続する可能性			
	2017	2018	2019
非常に可能性が高い	18%	20%	24%
とても可能性が高い	39%	38%	35%
どちらかといえば可能性がある	37%	35%	34%
あまり可能性がない	5%	5%	5%
全く可能性がない	2%	2%	2%

Activities / 支部活動

■ PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey」の概要紹介

全体的に見た支部会員としての価値			
	2017	2018	2019
非常に高い	8%	10%	8%
とても良い	24%	25%	25%
良い	41%	40%	38%
まあまあ	20%	19%	22%
良くない	7%	7%	7%

■ 支部会員活動

これまで支部のリーダーとして活動したことがありますか			
	2017	2018	2019
はい、現在リーダーとして活動中	10%	10%	10%
はい、過去にリーダーとして活動をしていました	7%	8%	6%
いいえ	83%	81%	84%

これまで支部のボランティアとして活動したことがありますか			
	2017	2018	2019
いいえ	76%	77%	75%
はい	24%	23%	25%

ライブ・イベントに参加した回数			
	2017	2018	2019
0	0%	34%	37%
1～3	0%	40%	37%
4～8	0%	15%	15%
8以上	0%	11%	11%

オンライン上のイベントに参加した回数			
	2017	2018	2019
0	0%	75%	74%
1～3	0%	17%	21%
4～8	0%	5%	4%
8以上	0%	3%	2%

支部会員活動の活発度			
	2017	2018	2019
自分が望むほど活動に従事していない	18%	20%	27%
自分が望むと同程度活動に従事している	51%	49%	41%
自分望む以上に活動に従事している	16%	17%	18%
上記のどれにも当たらない	14%	13%	8%
そのほか	1%	1%	7%

Activities / 支部活動

■ PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey」の概要紹介

支部会員としての活動を更に活発に行うために何が必要か			
	2017	2018	2019
ボランティア活動についての明確な詳細を提示	11%	7%	6%
自分にとって都合のいいタイミングでのイベント実施	25%	28%	22%
自分の業種に特化したイベント	17%	17%	21%
会員活動の機会についての支部からの情報提供	13%	17%	21%
全般的にもっと多くのイベント	15%	11%	13%
他参加者との交流機会（ネットワーキング）の提供	17%	16%	11%
上記に当てはまらない	4%	4%	3%
そのほか	0%	0%	4%

* In 2016, respondents had the opportunity to select up to three primary reasons for joining rather than just the single most important reason. This was in response to several respondents selecting "other" in previous years and typing multiple response options into the open-ended field. As a result, we can expect to see generally higher percentages for each option. Due to this change, 2016 data should not be compared to 2014 and 2015 data, which was left in simply for reference.

*** In the 2017 Survey, this question changed to standard NPS scale result.

PMI日本フォーラム2020のご案内



PMI日本フォーラム2020は、**全面リモート配信での開催**となります。

テーマ：
デジタルイノベーションに挑む ～プロジェクトマネジメント
が変える社会と組織～

聴講期間：7月4日(土)から12日(日)

◆ライブ配信

7月4日(土)、5日(日)

基調招待、Global、アカデミックの一部など18講演

◆オンデマンド配信

7月4日(土)～12日(日)

部会、スポンサーなどの43講演を24時間配信

ライブ配信の全てを7月6日からオンデマンド配信

PMI日本支部は、世界最大のプロジェクトマネジメント協会(PMI)の日本国内唯一の支部として、国内におけるプロジェ

クトマネジメントの普及を目的に、さまざまなステークホルダーと共に活動しています。

新型コロナウイルス感染のパンデミック後のシナリオでは、世界中の社会・経済・文化などの復興における最前線で、プロジェクトマネジメントの専門家が不可欠な存在になると想定されます。

新型コロナウイルス感染拡大によりデジタルイノベーションへの対応が否応なしに迫られている今、今年も内外の各分野から有益な示唆をいただける方々を講師として招請致しました。また、支部研究会や法人スポンサー・スタディー・グループの年間活動成果の発表、大学・高専などアカデミック関連組織からの講演など、注目セッションが全62講演と盛りだくさんです。

聴講可能期間は9日間ありますので、多くの講演をじっくり聴講いただけます。

◆受講証明書

- 受講証明書は、PDU、ITC実践力ポイントの2種類が対象となります。
- 最大12PDU、ITC実践力ポイント最大12時間分が取得できます。(13講演以上を聴講されても受講証明書は最大12講演分となります)

◆詳細・お申込み

- **締め切り：6月30日(火)**

- イベント詳細およびお申込みは下記リンクから

<https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2020/index.html>

Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2020のご案内

◆ PMI日本フォーラム2020 ライブ配信プログラム

2020年7月4日(土)	
10:00～11:00	M-1 英語 [The global business, economic, and geopolitical trends reshaping the future of work and powering The Project Economy] Chair of Board of Directors, PMI Tony Appleby
11:15～12:15	M-2 Beyond COVID-19とデジタルイノベーションによる私達の未来 東京大学大学院 情報学環 教授 越塚登
13:15～14:15	M-3 日本語 アジャイルプロジェクトのリスクを克服するシステムとしてのプロジェクトデザイン マサチューセッツ工科大学 SDMプログラム アカデミックディレクター, 上級講師 Bryan Moser
14:30～15:30	M-4 [気候変動の解決に向けて：都市システムデザインのアプローチ] 国立環境研究所 地球環境研究センター 主席研究員 山形与志樹
15:45～16:45	M-5 [デジタルビジネスの潮流とアジャイル開発 ～ビジネスとエンジニアの協働チームづくり～] (株)永和システムマネジメント 代表取締役社長 平鍋健児
17:00～18:00	M-6 録画 [走って、撮る。～トレイルランニングがもたらした新しい映像制作～] NPO法人富士トレイルランナーズ 倶楽部 理事 中尾益巳
2020年7月5日(日)	
10:00～11:00	M-7 [プロジェクト、組織、社会の架け橋としてのソフトウェアメトリクス] JFPUG会長 藤貫美佐
11:15～12:15	M-8 [人を見守る人工知能、人と協働するロボットの実現に向けて] (国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 プロジェクトマネジャー 渡邊恒文
13:15～14:15	M-9 日本語 [How to Change the World ～アジャイルリーダーシップ、Management 3.0とリーン・チェンジマネジメントで未来を改革する～] NuWorks合同会社代表 ステファン ニュースペリング、 デジタルビジネス・イノベーションセンター 鹿嶋康由
14:30～15:30	M-10 [飲食業界の生産労働人口減少問題とロボット導入への挑戦] (株)QBIT Robotics 代表取締役会長 狩野昌央

Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2020のご案内

◆ PMI日本フォーラム2020 ライブ配信プログラム

2020年7月5日(日)	
15:45～16:45	M-11 「日立造船のデジタル戦略とプロジェクトマネジメント」 日立造船(株) ICT推進本部長 Hitz先端情報技術センター長 橋爪宗信
17:00～18:00	M-12 PM教育の世界の状況と教育プログラム認定機関GACの紹介 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授 当麻哲哉

2020年7月5日(日)	
10:00～11:00	E-5 「金沢工業大学における夢考房プロジェクトにおけるプロジェクトマネジメント」 金沢工業大学 情報フロンティア学部 経営情報学科主任 武市祥司
11:15～12:15	E-6 「TSCPにおける研究と連携した実践的なエンジニアリング教育の取り組み」 玉川大学工学部エンジニアリングデザイン学科 准教授 齊藤純
13:15～14:15	E-7 「リーダーシップ教育とリフレクション」 パネリスト:工学院大学 教授 二上武生、愛媛大学 講師 丸山智子、(株)日立アカデミー 迫田雷蔵、モデレーター:PMI日本支部 理事 井上雅裕
14:30～15:30	E-8 「PBL学習の授業デザインを考える」 関西大学教育推進部 准教授 岩崎千晶
15:45～16:45	E-9 「アカデミックキャリアへの近道」 パネリスト:東海大学教授 大江信宏、バリューチェーンプロセス協議会 駒井忍 モデレーター:芝浦工業大学教授 除村健俊

2020年7月5日(日)	
10:00～11:00 11:15～12:15	L-3、L-4 日本語 チームワークによるプロジェクトデザインの最適化ワークショップ マサチューセッツ工科大学 SDMプログラム アカデミックディレクター, 上級講師 Brayn Moser 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授 当麻哲也

Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2020のご案内

◆ PMI日本フォーラム2020 オンデマンド配信プログラム

PFM/PGM/事例・手法	A-1
	「明日から現場で使えるチームマネジメント小技集のご紹介 ～ チーム内コミュニケーションに関するリスクはこうすれば防げる～」 リスクマネジメント研究会 野村剛生・青天勝彦
ソーシャル/事例・手法	B-1
	「セミナープログラムにおけるデジタル・イノベーション」 セミナー・プログラム 西慶倫・森本信一
アジャイル/事例・手法	C-1
	「TOC-CCPMで圧倒的なスピードが求められるDX時代を生き抜く」 (株)電通テック マーケティング・テクノロジスト 東秀和
PMBOK/事例・手法	D-1
	「ステークホルダ・マネジメントにおけるPMIデジタルプラットフォームの利用 ～ステークホルダ・マネジメントアンケート結果から見るPMIデジタルプラットフォームの活用～」 ステークホルダー研究会 鈴木道代・河南 美章
アカデミック	E-1
	「リカレント教育とライフスキルとしてのプロジェクトマネジメント」 PMI日本支部 会長 片江有利 PMI日本支部副会長 齊藤学
PFM/PGM/事例・手法	A-2
	「プログラムマネジメント事例分析 ～サブスクリプションモデルへのAdobeの転換」 PFM/PGM研究会 林宏典・原啓子
ソーシャル/事例・手法	B-2
	「SDGsの達成を目指して① 『SDGsスタートアップ』の提案」 ソーシャルPM研究会 稲葉涼太
アジャイル/事例・手法	C-2
	「アジャイル開発に活かせるプロジェクト・マネジャーの人間力」 法人スポンサー・人材育成SG 最上千佳子
PMBOK/事例・手法	D-2
	「PMBOK®ガイド7版の概要について」 プロジェクトマネジメント研究会 羽佐間一潮
アカデミック	E-2
	活用しないと損！ PMI教育財団が提供する教材、奨学金、表彰制度の紹介 小山工業高等専門学校 伊藤衡

Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2020のご案内

◆PMI日本フォーラム2020 オンデマンド配信プログラム

PFM/PGM/事例・手法	A-3
	「日本人PgMP/PfMP 100人構想」 PFM/PGM研究会 野上啓
ソーシャル/事例・手法	B-3
	「SDGs達成を目指して② 『社会人によるPM教育実践のすすめ』 ソーシャルPM研究会 大久保剛
アジャイル/事例・手法	C-3
	「自動車業界から見たアジャイルの課題」 アジャイル研究会 井芹薫・中村正伸・齊藤毅
PMBOK/事例・手法	D-3
	「DX時代に生き残るためのプロジェクトマネジャーの“自己変革”のすすめ!!! —その成否の鍵は、挑戦的プロジェクトにおけるタレント・トライアングルの実践だった!?—」 関西ブランチ PM実践研究会 勝連城二
アカデミック	E-3
	「プロジェクト・エコノミー時代に日本の「学び」はどう備えるべきか」 ベライゾンジャパン合同会社 河々谷健一
PFM/PGM/事例・手法	A-4
	「デジタルイノベーションにおけるプロジェクトの成否とは? —PfM/PgMを考慮した成否の定義—」 PFM/PGM研究会 河村智行
ソーシャル/事例・手法	B-4
	「SDGs達成を目指して③ 『シニアPMの社会的活動紹介』 ソーシャルPM研究会 野尻一紀・竹田憲一
アジャイル/事例・手法	C-4
	「2020年 アジャイル プロジェクト マネジメント意識調査」 アジャイル研究会 成田和弘
PMBOK/事例・手法	D-4
	「地域セミナー2019 [全国9都市開催] におけるショートケース・ワークショップの実践報告 —レポート参加希望率95%の秘訣—」 関西ブランチ PM実践研究会 橋本欽司
アカデミック	E-4
	「コンピテンシーの開発とアセスメント」 (株)リアセック取締役 松村直樹 芝浦工業大学教授 井上雅裕

Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2020のご案内

◆PMI日本フォーラム2020 オンデマンド配信プログラム

人材育成/事例・手法	G-1
	「アーキテクチャトランスフォーメーション ～ビジネス変革とプロジェクトをつなぐアーキテクチャのセオリー～」 (株)アイ・ティ・イノベーション シニアコンサルタント 松井淳
PMO/PM一般	H-1
	「PMI標準の紹介」 標準推進委員会 池田修一
OPM/PM一般/事例・手法	J-2
	「想定外に対処するための、OPMの勘所」 組織的プロジェクトマネジメント研究会 田島彰二
事例・手法/PM一般	K-1 英語
	「Renewable Energy Projects —Management and challenges」 IRC研究会 Rajeev Supekar Mohan Koushik Tupakula
PM一般/事例・手法	L-1
	「ほくは、プロマネで、プロダクトオーナーで、サービスマネジャー ～価値を共創するということ～」 日本クイント株式会社 代表取締役 最上千佳子
人材育成/事例・手法	G-2
	「PMコンピテンシーにフォーカスしたケースメソッドのテラリング方法」 法人スポンサー・ケースメソッドSG 高橋和巳
PMO/PM一般	H-2
	「ビジネスアナリストとしてのレジリエンス」 (株)エル・ティール・エス シニアビジネスアナリスト 大井悠
OPM/PM一般/事例・手法	J-3
	「EVMとESのさらなる活用に適用する統計的確率分析法」 IPPM研究会 泉澤聖一
事例・手法/PM一般	K-5
	「設備保全活動におけるDX対応と定量データ」 関西ブランチ 定量的PM事例研究会 工藤達矢
PM一般/事例・手法	L-2
	「グラフィックレコーディング入門」 PMツール研究会 野村和哉・安部修
人材育成/事例・手法	G-3
	「進化するPMCDF ～PMCDF第3版とPMコンピテンシー開発への活用～」 PMタレントコンピテンシー研究会 金子啓一郎・中村亜子

Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2020のご案内

◆PMI日本フォーラム2020 オンデマンド配信プログラム

PMO/PM一般	H-3	「開発アーリーステージにおけるプロジェクトマネジメント —PMOからIPMOへ—」 テルモ(株) 研究員 中村静香
	J-4	「ビジネスアナリシス入門」 (株)TRADE CREATE 講師 色野一人
事例・手法/PM一般	K-6	「バックキャスト法によるプロジェクト実務者・経営者の「生存戦略」考察」 関西ブランチ PM創生研究会 大西徹
	L-5	「AI@Work ~ AI活用の加速×プロジェクトマネジメント」 AI@Workプロジェクト 武上弥尋・渡邊恒文
人材育成/事例・手法	G-4	「DX時代に求められるPMコンピテンシー ~私たちの生きる道とは~」 PMタレントコンピテンシー研究会 神庭弘年・浦田有佳里
	H-4	「海外動向からみたミライの組織運営とPMOの役割」 PMO研究会 設楽智久・森岡英一
OPM/PM/事例・手法	J-5	「プロジェクト・マネジャーとビジネスアナリストとのコラボレーションの重要性」 ビジネスアナリシス研究会 清水千博
	L-6	「PM4AI, AI4PM, AIK4PM ~ AI@Work Study Groupでの事例研究」 AI@Workプロジェクト 板橋宣孝・林克郎・佐藤美一
人材育成/事例・手法	G-6	「DX時代の今、地域に必要な人材 ~PoCから事業に繋げるには~」 地域サービス委員会 浦田有佳里
	H-5	「PMO組織における「リスク管理」の違いと「PMO」変革への提言」 PMO研究会 森博一・大谷 準
OPM/PM一般/事例・手法	J-6	「ビジネスアナリシスにおけるツールと技法についての概説」 ビジネスアナリシス研究会 仲宗根朝哉

Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2020のご案内

◆ PMI日本フォーラム2020 オンデマンド配信プログラム

PMO/PM一般	H-6
	「デジタルトランスフォーメーションに挑むPMOの考察」 PMO研究会 小山恵一郎・遠藤猛

『組織のプロジェクトマネジメント (OPM) 標準』 日本語版出版について

OPM翻訳プロジェクトリーダー、OPM研究会 リーダー 河々谷 健一

■はじめに

この度、『組織のプロジェクトマネジメント (OPM) 標準』の日本語版が出版されることとなりました。PMIにおける組織のプロジェクトマネジメント (OPM) に関する標準としては、これまで『組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル (OPM3®)』が第3版まで発刊されてきましたが、これとは別に、OPMフレームワークの原則を提示する標準として新たに発刊されました。



背景としては、PMI標準全体がプロセスベースから原則(プリンシプル)ベースに移行している流れがあること、さらに世の中がかつてないスピードで変化している状況の中で、組織の目標も成熟度を高めるよりも、より変化に素早く対応できるアジリティの獲得にシフトしていることが考えられます。そのような組織のアジリティを獲得するために、組織はどのような達成能力(ケイパビリティ)を備えるべきか、という問いに今回の標準がプロジェクトマネジメントという観点から一つの方向性を提供しています。ぜひ実際に手に取って参考にいただければ幸いです。

■組織のプロジェクトマネジメント (OPM) とは

本標準ではOPMは「プロジェクト、プログラム、およびポートフォリオマネジメントの実務慣行と、組織の戦略および目標とを整合させるために役立ち、組織の状態、状況、または構造の範囲内でこれらの実務慣行を修正し調和させるために使用されるフレームワークである」と定義されています。つまり、組織におけるプロジェクトマネジメントの活動を、どのように組織の戦略や目標の達成に結びつけていくか、という問題を解決するための枠組みです。それを実現するための

要素として「OPM方法論」、「知識マネジメント」、「タレント・マネジメント」、および「OPMガバナンス」の4つが解説されています。

ただし、これらの要素を組織に取り入れるのは容易ではありません。他のプロジェクトマネジメント実務慣行とは異なり、OPMの要素にはプロジェクト活動に直接関わっていない部門などが含まれるからです。例えばタレント・マネジメントでは人事部の育成部門が関わるのが考えられますし、OPMガバナンスでは戦略に対するフィードバックを行うために経営企画部門が関わる可能性があります。本標準の中では組織にOPMを導入するための流れについても言及しています。

■OPMを学ぶ価値

OPMの導入は組織の変革を伴うため、本標準は主に経営層やPMO、部門長などを対象にしています。しかし、私は現場の最前線で活動しているプロジェクト・マネジャー(PM)にもOPMを学んで欲しい、と考えています。現場のPMの多くは意識しているかどうかの有無を問わず、プロジェクトを遂行する上で所属する組織のプロセスやリソースに大きく依存しています。自分のプロジェクトにメンバーを加えたり、プロジェクトに必要な物品を調達したりするのにも組織のプロセスを使っています。どんなに優秀なPMであっても、一人だけでプロジェクトを遂行することはできません。組織の持つ能力を如何に上手く活用できるかがプロジェクトの成否を左右するといっても過言ではありません。したがって、現場のPMにこそ所属する組織のしくみを把握し、必要であれば改善にも貢献する、といった活動にOPMを役立てていただきたいです。

■日本語版の翻訳にあたって

OPMの翻訳活動には2014年の『OPM3®』第3版から携わってきましたが、今回の標準ではプロジェクト・リーダーを務

Activities / 支部活動**■『組織のプロジェクトマネジメント(OPM)標準』日本語版出版について**

めさせていただきました。今回の翻訳活動には事務局も含め8名体制で臨みました。

一番苦労したところはチームビルディングです。普段の研究会活動は、それぞれのメンバーが学びたいこと、議論したいことを持ちよるという「グループ活動」なのですが、翻訳プロジェクトの場合は、参加するメンバーが役割と責任を持って目標の達成に貢献しなければならない「チーム活動」になります。ボランティア組織で各メンバーの貢献を引き出して作業を推進するためには、リーダーとしてのより強い熱意とメンバーへの働きかけが必要であることをあらためて認識しました。

また、メンバーが他のチームでの活動などで多忙であったり、遠方の参加者がいたりしたため、対面での打ち合わせを一度も行わず、すべてリモートで作業を進めました。毎週末、夜間に一章ずつ一文一文細かくチェックするという作業を約

3カ月実施しました。一つの用語の訳について30分以上議論するような場面もあり、原文に忠実でありながら読みやすい文章にするのは難しかったですが、OPMに対する理解も深まりましたし、よい経験になりました。

■最後に

組織的プロジェクトマネジメント研究会では、今回のOPM標準日本語版の出版を機に、OPMフレームワークを日本国内に展開するためのセミナーの企画や、さまざまなかたちでの情報提供を推進することを検討しています。

また、当研究会ではOPMに限らず組織やプロジェクトマネジメントに関するさまざまなトピックを取り上げて議論しています。もしご興味をお持ちでしたら、当研究会への参加をお待ちしています。

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
 今般の新型コロナウイルス拡大防止の観点から、多くのセミナーは中止となっています。現在、リモート環境でのセミナー実施について鋭意検討中です。
 詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー/ワークショップ

● ディシプリンド・アジャイル概説

- 日時：7月21日(火) 18:30～20:30
- 形式：ウェビナー
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● 8月度 月例セミナー

- 日時：8月19日(水) 19:00～21:00
- 形式：ウェビナー
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● PgMP® 資格取得セミナー

- ～プログラムマネジメント標準 第4版 概説～
- 7月31日(金) 19:00～21:00
- 形式：ウェビナー
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI 日本フォーラム 2020

- 日時：2020年7月4日(土)・5日(日)
- 場所：ウェビナー
- 12PDU、ITC実践力ポイント12時間分

● PMI Japan Festa 2020

- 日時：2020年11月7日(土)・8日(日)
- 場所：ウェビナー
- 10PDU、ITC実践力ポイント10時間分(予定)

【月例セミナー開催について】 2020年度の月例セミナーは、下記の日程で行います。

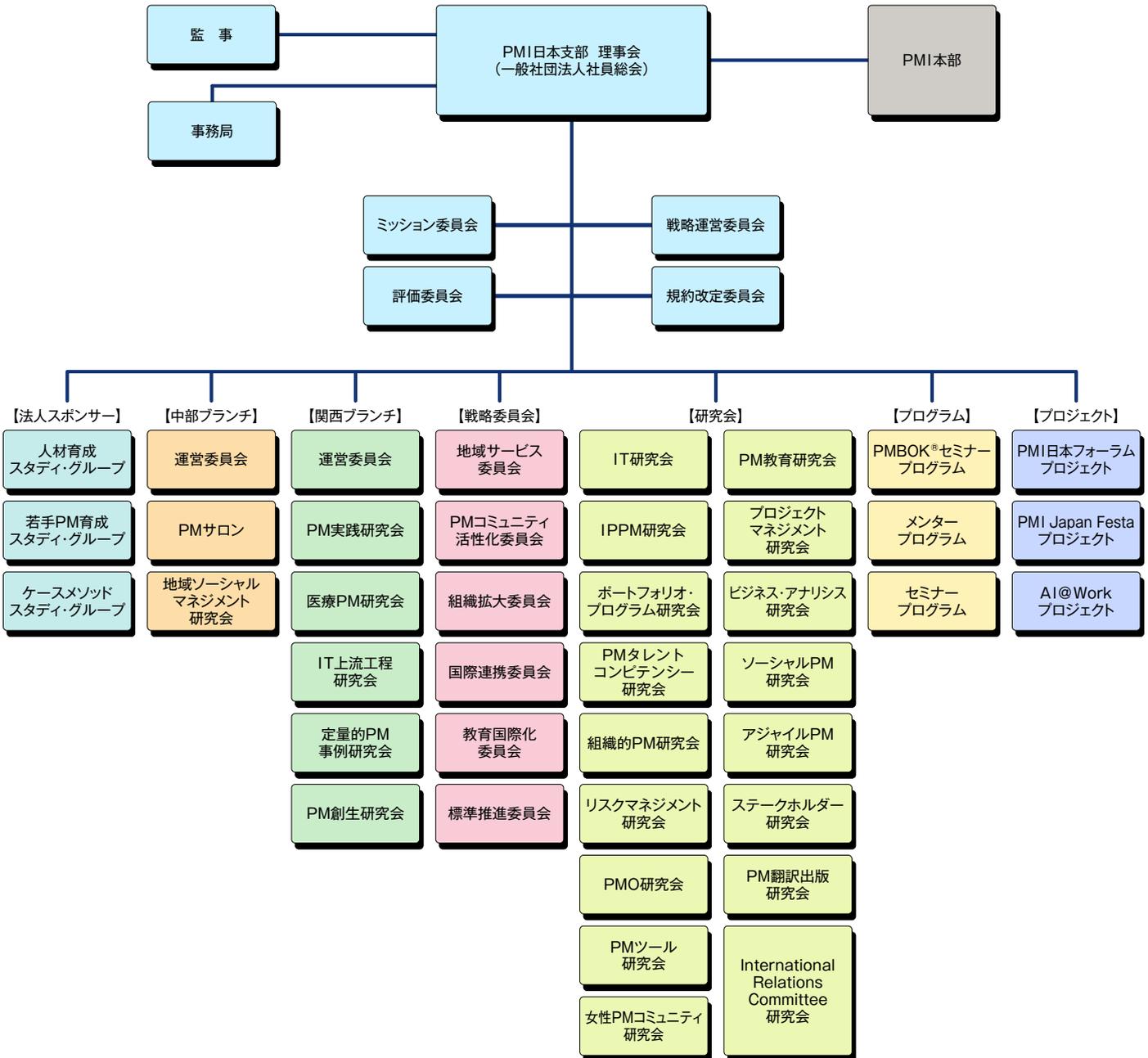
【日程(予定)】	(2020年1月25日(土) 新春特別セミナー)
	① 2020年2月20日(木)
	② 2020年3月18日(水) 中止
	③ 2020年4月24日(金) ウェビナー
	④ 2020年5月22日(金) ウェビナー
	⑤ 2020年6月26日(金) ウェビナー
	⑥ 2020年8月28日(金) ウェビナー
	⑦ 2020年9月25日(金) ウェビナー
	⑧ 2020年12月16日(水) 実施方法検討中

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
 PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2020年6月現在)



■理事一覧 (2020年6月現在)

会長	片江有利	株式会社システムコストマネジメント
副会長	浦田有佳里	TIS株式会社
副会長	奥澤薫	KOLABO
副会長	斉藤学	スカイライトコンサルティング株式会社
副会長	端山毅	株式会社NTTデータ
副会長	福本伸昭	株式会社JTB
副会長	森田公至	日本アイ・ビー・エム株式会社

(以下、五十音順)

理事	麻生重樹	日本電気株式会社
理事	池田修一	株式会社ポジティブ・ラーニング
理事	伊藤衡	小山工業高等専門学校専攻科 非常勤講師
理事	伊藤芳彦	株式会社三菱総合研究所
理事	井上雅裕	芝浦工業大学
理事	岩岡泰夫	株式会社国際開発センター
理事	金子啓一郎	三菱電機株式会社
理事	木南浩司	株式会社マネジメントソリューションズ
理事	富岡洋子	株式会社NTTデータ
理事	中村亜子	パーソルラーニング株式会社
理事	藤井新吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理事	松本弘明	株式会社オプティム
理事	水井悦子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理事	山本智子	川崎医療福祉大学
理事	除村健俊	芝浦工業大学
理事	米澤徹也	東洋エンジニアリング株式会社
理事	渡辺哲也	株式会社日立アカデミー
監事	島崎理一	OPTY合同会社
監事	山中良文	JFEシステムズ株式会社
監事	渡辺善子	株式会社日本政策金融公庫

■最新の会員・資格者情報 (2020年4月30日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
603,406人	5,156人	1,033,511人	38,563人	5人	12人	9人	110人	5人	13人	174人

■行政スポンサー (2020年6月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (111社、順不同、2020年6月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ビューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフト株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- パーソルラーニング株式会社
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス

Fact Database/データベース

- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & AD システムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社アジャイルウェア
- SBテクノロジー株式会社
- 株式会社インテジテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社ビジネスコンサルタント
- サイフォーマ株式会社
- 株式会社オプテージ
- 株式会社JTB 情報システム
- 株式会社NTT データ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- ヤンマー情報システムサービス株式会社
- アフラック生命保険株式会社
- NECソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ

■アカデミック・スポンサー 一覧 (49教育機関、登録順、2020年6月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立ほこだて未来大学
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
- 岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科
- 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございます。

- 2019年末に理事選挙が行われたことを受け、前号で4人の新任理事挨拶を掲載しています。今号では、後半の新任理事4人と新任監事2人からのご挨拶を掲載しました。
- 新型コロナウイルス禍により、4月から日本支部ではZoomを活用したウェビナーの提供を始めました。4月度月例セミナーが支部として最初の経験となりましたが、その企画・準備に関わるボランティア関係者全員がリモートワークを続ける中で何とか実施にこぎつけ結果的に高評価を受けるまでのエピソードを、セミナープログラム近藤幹事から投稿いただきました。
- PMI本部のマーケット・リサーチ・チームが毎年1月に全世界の会員を対象に実施しているアンケート調査結果から、2020年版の日本支部に関わる部分をご紹介します。
- いよいよ7月4日・5日に迫った「PMI日本フォーラム2020」。今年は全セッションをウェビナー形式で運営します。その概要をご紹介します。申込みは6月30日までです！
- この度、日本語版が出版されることとなった『組織のプロジェクトマネジメント (OPM) 標準』。その翻訳プロジェクトのリーダーを務めた河々谷健一氏 (OPM 研究会 リーダー) から、その概要をご紹介します。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

5月25日に緊急事態解除宣言は発出されたものの、新型コロナウイルス禍による影響は様々な方面でまだまだ続いています。会社での勤務を再開された事業所もありますが、日本支部事務局はまだリモートワークを継続中です。

そのような中、PMI日本支部における年間最大のイベント「PMI日本フォーラム2020」も、短い準備期間でしたがボランティアの皆さまの絶大なご協力の下、全面リモート開催に向けてラストスパートをかけています。

新型コロナ後の新たな日常生活・PM活動を模索し、「禍を転じて福と為す」生き方をしていきたいものです。皆さまも十分に健康に留意してお過ごしください。

PMI日本支部ニュースレター Vol.83 2020年6月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)